

専門分野Ⅱ：母性看護学

<概要>

母性看護学は生涯を通じた女性の健康と看護について学びます。中でも妊娠・出産・育児といった周産期にある女性とその家族を対象とした看護を中心に学びを深めます。

母性看護学（4単位 105時間）は、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学Ⅲで構成されています。母性看護学概論では母性看護の基礎となる概念や対象の特徴、対象を取り巻く社会について理解を深め、女性のライフステージ各期における看護を学びます。また女性の生涯を通じた健康の保持・増進の観点からリプロダクティブヘルスケアについて学びます。母性看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでは、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の生理と看護および、妊娠・分娩・産褥・新生児の異常と看護について学びます。母性看護学Ⅲでは母性看護における看護過程、および母性看護技術について学びます。

母性看護学実習（2単位 90時間）では、病院（産科病棟・産婦人科外来）での実習を通し、妊娠・分娩・産褥期および新生児期を中心とした母性看護の対象の特性を理解するとともに、看護過程を展開し、健康の保持・増進・および援助に必要な知識・技術・態度を習得します。

<単位> 6単位 195時間

<目的>

女性のライフサイクル各期の特徴、人の性と生殖とその意義および、母性各期の特徴を総合的に理解し、家族を含めた対象の健康状態に応じた母性看護を実践できる基礎的知識、技術、態度を養う。

<目標>

1. 人間の性と生殖の意義を理解する。
2. 女性のライフサイクル各期にある人々の看護を理解する。
3. 周産期にある対象と新生児の看護に必要な知識・技術を習得する。
4. 社会の動向から広い視野で母性看護の対象および看護の役割を理解する。

<母性看護学の科目構成と単位時間数など>

科目	単位	時間	年次	時期	学習項目
母性看護学概論	1	30	1	後期	・母性看護の主な概念 ・母性看護の対象を取り巻く社会 ・母性看護の対象理解 ・女性のライフステージ各期における看護 ・リプロダクティブヘルスケア
母性看護学Ⅰ	1	15	2	後期	・子どもを産み育てるにあたっての問題の理解 ・ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥の理解
母性看護学Ⅱ	1	30	2	前期	正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と看護
母性看護学Ⅲ	1	30	2	後期	・ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥・新生児の看護 ・周産期にある対象の看護過程の展開 ・周産期にある対象と看護技術
小計	4	105			

母性看護学実習	2	90	2	2年次 後期～ 3年次	・妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期 の看護
合計	6	195			

専門分野Ⅱ：母性看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学概論	専任教員	1年次後期	1単位／30時間
科目目標			
1. 母性看護学の概念について理解する。 2. 女性のライフステージにおける身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 3. 母性の健康を守るための母子保健・医療・福祉の現状を知る。 4. リプロダクティブヘルスに関する主な健康問題と看護について学ぶ。			
教科書		参考文献	
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院			
評価方法			
筆記試験、レポート、受講状況			
授業計画			
時間	単元	授業内容	授業方法
6	母性看護の主な概念	母性とは 親になること 母子関係と家族発達 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス／ライツ 母性看護における倫理	講義 演習
6	母性看護の対象を取り巻く社会	母性看護の変遷 母子保健統計の動向 母性看護に関する法律と施策	
4	母性看護の対象理解	女性のライフサイクルと家族 家族の発達段階と家族看護 女性の発達・成熟・継承 性と生殖の機能のメカニズム	
6	女性のライフステージ各期における看護	女性のライフサイクルと健康 ライフステージ各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期	
6	リプロダクティブヘルスケア	家族計画 性感染症とその予防 HIVに感染した女性に対する看護 人工妊娠中絶と看護 喫煙女性の健康と看護 性暴力を受けた女性に対する看護 国際化社会と母子保健	
2		試験	

専門分野Ⅱ：母性看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学Ⅰ	医師	2年次後期	1単位／15時間
科目目標			
1. 子どもを産み育てるにあたっての問題について理解する。 2. ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥について理解する。			
教科書		参考文献	
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院			
評価方法			
筆記試験			
授業計画			
時間	単元	授業内容	授業方法
6	子どもを産み育てるにあたっての問題	1. 遺伝相談・出生前診断 遺伝相談とは 出生前診断の実際 胎児治療と遺伝子治療 2. 不妊治療 不妊とその原因 不妊治療 不妊治療の問題点	講義
8	妊娠・分娩・産褥の異常	1. 妊娠の異常 ハイリスク妊娠 妊娠期の感染症 妊娠疾患 多胎妊娠 妊娠持続期間の異常 子宮外妊娠 2. 分娩の異常 産道・娩出力・の異常 胎児の異常と分娩障害 胎児の付属物の異常 胎児機能不全 分娩時の損傷・異常 分娩時異常出血 産科処置と産科手術 3. 産褥の異常 子宮復古不全 産褥期の発熱 産褥血栓症 精神障害	
1		試験	

専門分野Ⅱ：母性看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数	
母性看護学Ⅱ	専任教員	2年次前期	1単位／30時間	
科目目標				
1. 周産期にある母子、家族の心理的・社会的特徴を理解する。 2. 周産期にある母子、家族の看護を理解する。				
教科書			参考文献	
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院 病気がみえる10 産科 第4版				
評価方法				
筆記試験、レポート				
授業計画				
時間	単元	授業内容等	授業方法	授業担当
8	妊娠期における看護	1. 妊娠期の身体的特性 2. 妊娠期の心理・社会的特性 3. 妊婦と胎児のアセスメント 4. 妊婦と家族の看護	講義	専任教員
6	分娩期における看護	1. 分娩の要素 2. 分娩の経過 3. 産婦と家族の看護 4. 分娩期の看護の実際	講義	専任教員
8	新生児期における看護	1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児の看護		
6	産褥期における看護	1. 産褥経過 2. 褥婦のアセスメント 3. 褥婦と家族の看護 4. 施設退院後の看護		
2		試験		

専門分野Ⅱ：母性看護学

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学Ⅲ	専任教員	2年次後期	1単位／30時間
科目目標			
1. 子どもを産み育てるにあたっての問題と看護について学ぶ。 2. ハイリスクおよび異常妊娠・分娩・産褥・新生児の看護について理解する。 3. 周産期にある対象の看護過程について学ぶ。 4. 周産期にある対象の看護技術を学ぶ。			
教科書		参考文献	
1) 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 医学書院 2) 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 3) 写真でわかる母性看護技術 インターメディカ 4) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版		1) ウェルネスからみた 母性看護過程+病態関連 図 第2版 医学書院 2) マタニティ診断ガイドブック 医学書院 3) 母性看護実習ガイド 照林社	
評価方法			
筆記試験 課題レポート 受講状況			
授業計画			
時間	単 元	授業内容等	授業方法
6	子どもを産み育てるにあたっての問題と看護	1. 遺伝相談・出生前診断と看護 2. 不妊治療と看護 不妊治療を受けている女性の心理・社会的特徴 不妊治療の終結にかかわる看護	講義
8	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常と看護	1. 妊娠の異常と看護 2. 分娩の異常と看護 異常のある産婦の看護 異常分娩時の産婦の看護 3. 新生児の異常と看護 低出生体重児、高ビリルビン血症 4. 産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の発熱、乳房トラブル 5. 精神障害合併妊婦と家族の看護 試験	
12	周産期にある対象の看護過程の展開	1. 母性看護における対象把握 2. ウェルネス診断とは 3. 産褥期のアセスメント項目と診断に必要な視点 4. 新生児期のアセスメント項目と診断に必要な視点 5. 事例の展開	講義 演習
4	周産期にある対象の看護技術	1. 沐浴 2. 調乳 3. 新生児の諸計測	講義 演習

専門分野Ⅱ：母性看護学実習

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学実習	専任教員	2年次後期または3年次	2単位／90時間
履修条件			
1. 専門分野Ⅰを終了していること。 2. 母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学Ⅲを修了または、単位取得の見込みがあること。			
科目目標			
目的：妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の特性・特徴を理解し対象に応じた看護を行うための基礎的能力を養う。 目標： 1. 妊娠期・分娩期・産褥期の経過とそれらに伴う母性の特性を身体的、心理・社会的側面から理解する。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期に応じた看護を理解する。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期にある人の看護を行うための看護技術を習得する。 4. 新生児の特徴を理解し、看護を行うための看護技術を習得する。 5. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と援助を通して母性観を深める。 6. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢、態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 産科センター、産婦人科外来		出席状況、実習内容、実習記録、 カンファレンスの内容、実習態度、事前学習	
授業計画			
1. 実習期間および実習時間 1日7.5時間 12日間（3週間）の実習を行う。			
2. 実習方法 1) 産婦人科外来（妊娠期）・褥室（産褥期）・新生児室（新生児期）をローテーションで実習する。 2) 妊婦健診の見学、機会があれば介助を行い妊娠期の看護を理解する。 3) 褥婦・新生児を受け持ち、看護過程を展開する。 4) 妊娠期や出産後に行われる集団指導の見学・参加や個人指導の見学をする。 5) 機会があれば産婦の援助、分娩の見学をする。 6) カンファレンスは実習2週目に「中間（テーマ）カンファレンス」、3週目に「最終（実習のまとめ）カンファレンス」を行う。			
その他、詳細は実習要項参照			